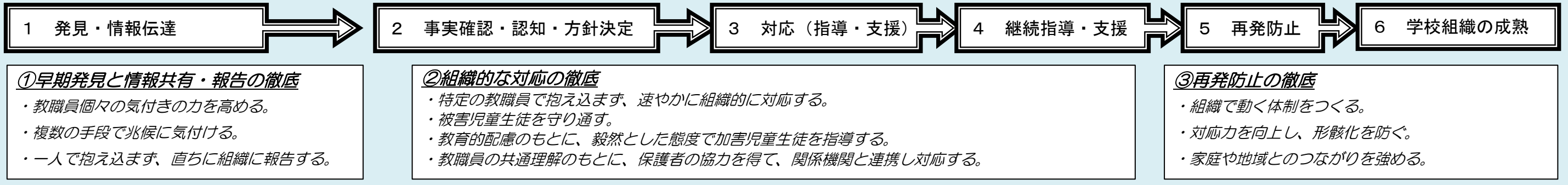


# いじめ発生時における学校の対応フロー図

順序・ポイント



**①早期発見と情報共有・報告の徹底**

- ・教職員個々の気付きの力を高める。
- ・複数の手段で兆候に気付ける。
- ・一人で抱え込まず、直ちに組織に報告する。

**②組織的な対応の徹底**

- ・特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。
- ・被害児童生徒を守り通す。
- ・教育的配慮のもとに、毅然とした態度で加害児童生徒を指導する。
- ・教職員の共通理解のもとに、保護者の協力を得て、関係機関と連携し対応する。

**③再発防止の徹底**

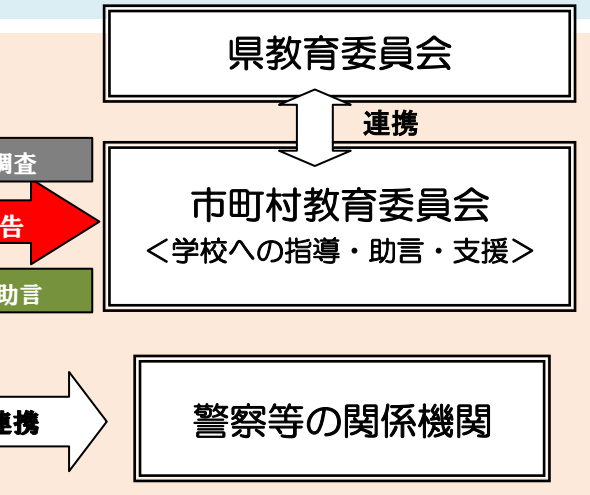
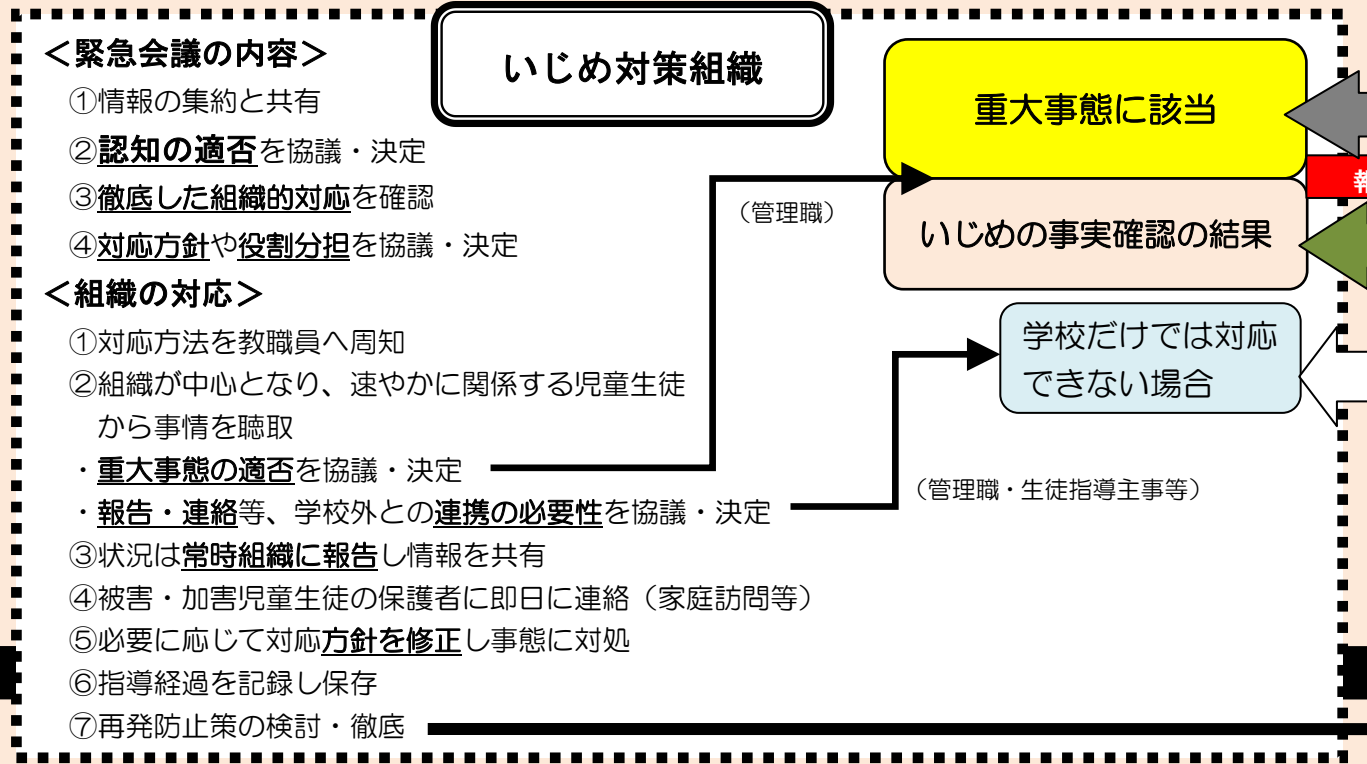
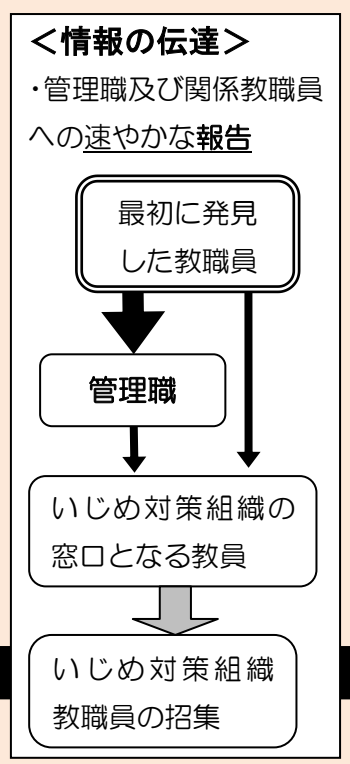
- ・組織で動く体制をつくる。
- ・対応力を向上し、形骸化を防ぐ。
- ・家庭や地域とのつながりを強める。

**<学校の姿勢>**

- ・学校いじめ防止基本方針（取組）の徹底
- ・学校長のリーダーシップ
- ・教職員の共通理解
- ・児童生徒との信頼関係

**<発見方法>**

- 授業中・休み時間・部活動中・登下校等の日常観察
- 本人・保護者・友人・地域・相談機関等からの連絡や相談
- 定期的な学校生活アンケートへの記述
- 学級日誌や生活ノート等への記述
- 遅刻・欠席の状況
- 保護者との対話や家庭訪問時の様子



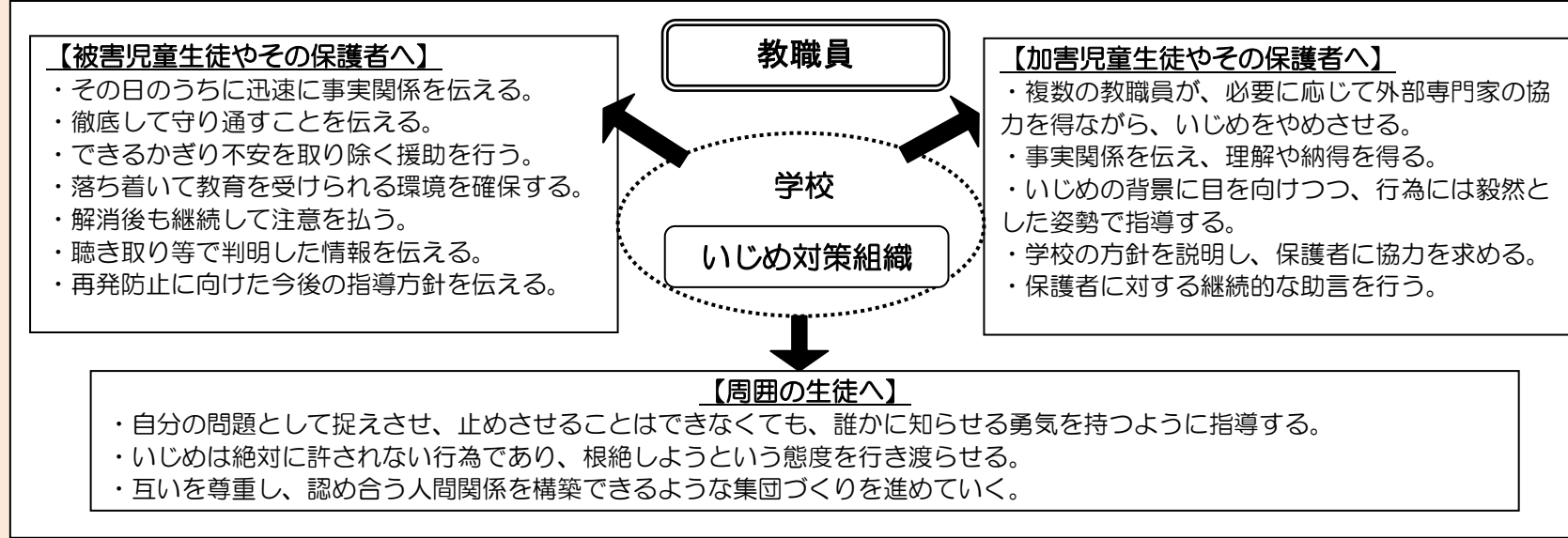
**日常の取組を点検・強化**

**<組織体制>**

- ・いじめに対する学校の一致協力体制
- ・一部の教職員で抱え込むことのない、情報共有の仕組み
- ・児童生徒の進学や進級に際した適切な引き継ぎや情報提供
- ・必要に応じた、外部専門家との連携
- ・年間計画に位置付けた校内研修の実施
- ・児童生徒と向き合う時間の確保
- ・教職員の日頃の児童生徒理解 など

**<地域や家庭との連携>**

- ・家庭訪問や学校通信を通じた家庭との緊密な連携
- ・開かれた学校づくり推進委員会等でのいじめ問題に関する協議
- ・行事等を通じた地域との連携や協働関係 など

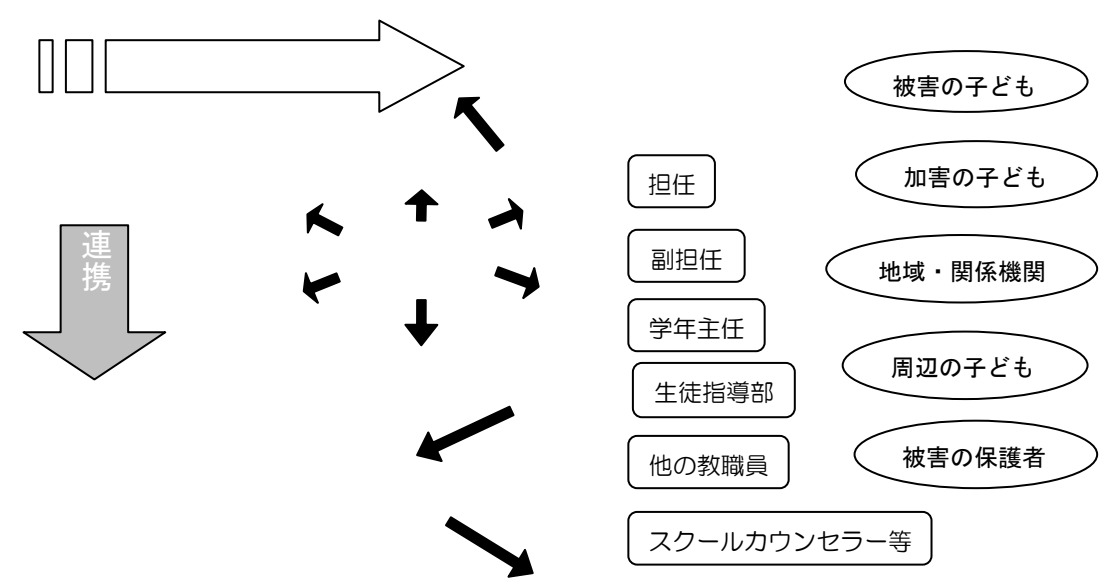
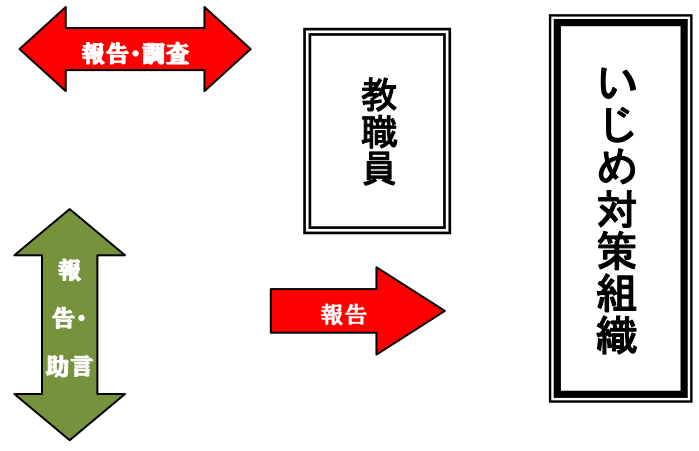


対応の流れ

いじめを許さな学校・学級へ



いじめの事実確認の結果



(管理職・生徒指導主事等)

